

校長室より

第63号

「天空高き」



平成26年9月4日

2学期がスタートー危機管理のさ・し・す・せ・そー

8月6日には岩国市において記録的な大雨で、そして20日の早朝には広島市でやはり集中豪雨で、甚大な被害がでました。亡くなられた方々に対しては心よりご冥福をお祈りし、被災された方々にはお見舞いを申し上げます。

始業式では、今夏の集中豪雨で岩国市と広島市をはじめ、多くの地域で尊い命が奪われましたので、全校生徒と教職員一同が1分間の黙祷を捧げました。



(付属中学生徒会による募金活動)

今、日本だけでなく世界各地で災害、紛争そして伝染病が発生しています。いつ、どこで、何が起こるか、我々にはとても予測することができません。自分の命は自分で守る。そのためには我々はどのような準備をすべきでしょうか。

まず、「創造力を高める」。そのためには、「日々、当たり前のことを当たり前にする」ということが大切だと思います。そして、平素から緊急時に対応するための準備を怠らないようにすることです。例えば、登下校での交通ルールやマナーを守る。寝る前に明日の準備をする。天気予報を見て、明日雨が降りそうなら、いつもより早く起床して、傘を準備して早めに登校する。そんな日頃からの心がけが、緊急時での対応能力を高め、被害を最小限に食い止めることができると思います。

危機管理能力とは、現実に危機に陥った時に、うまく対処し、被害を最小限に留めることができる能力です。事前にどんなリスクがあるかを分析（リスク認識）し、それらに対して、どれだけの準備をしておくかも、危機管理能力に含まれます。是非、これらのことに関して、家族で話し合い（備蓄食糧・避難経路・家族との連絡方法）を持ってください。

最後に、危機管理の「さしすせそ」ということが盛んに言われますがご存知でしょうか？「さ：最悪の事態を考え」「し：慎重に」「す：すばやく（あわてず、あせらず、あきらめず）」「せ：誠意を持って（目に見える、具体的な形で）」「そ：組織的な対応を」ということです。是非、この機会に覚えて置いて下さい。

9月1日は年に一度の防災の日です。

2014南関東総体結果—ご苦勞様でした—

今年の高校総体には、団体でハンドボール女子部が、個人で、空手道部と水泳部が出場しました。

水泳部の芦村優奈選手が、200m個人メドレーで6位に入賞しました。芦村選手は今まで、国体などで表彰台に上がったことがありますが、インターハイでは、1・2年生とも予選敗退で、随分悔しい思いをしてきたと思います。ところが、高校3年生の最後に予選7番目の成績で決勝進出を決めると、決勝では予選を上回る2分17秒79でゴールしました。まさしく有終の美を飾ったといえますが、9月には国体があります。さらなる飛躍を期待したいと思います。

ハンドボール女子は1回戦鹿児島南高校と対戦し、25対19で見事初戦を突破しました。2回戦は全国大会常連校の大阪四天王寺高校でした。

前半は15対11で4点差のリードで折り返しましたが、後半の終盤に追いつかれ、終わってみれば、23対24の1点差で敗退しました。

選手、監督、コーチ、そして一番のサポーターである家族の方々や関係者の皆様。本当に悔しさがいっぱいだったと思います。悔しさをバネにこれからの練習に活かしてもらいたいと思いますが、3年生の諸君は最後の大会でした。3年生が蒔いてくれた種は後輩に引き継がれ、次の年にはより大きな花を咲かせてくれると思います。お疲れ様でした。

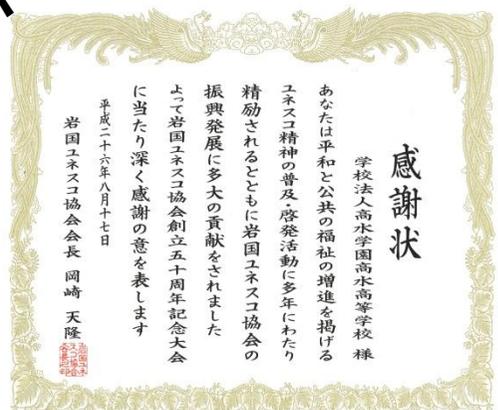


岩国ユネスコ協会から感謝状

岩国ユネスコ協会 50周年記念大会が、岩国市長を始めとして多くの来賓を迎え、8月17日に岩国国際観光ホテルで開催されました。

その席上2個人と3団体が永年にわたり、ユネスコ活動に多大に貢献をされたということで、感謝状を贈呈されました。

本校も「岩国ユネスコ協会高校部設立当初から積極的に高校生のユネスコ活動の振興に寄与し、あわせて、岩国ユネスコ協会の一般事業にも積極的に参加、協力し岩国ユネスコ協会の発展に貢献。特に近年では、ユネ



スコスクールとして、学校を挙げて国際理解教育やユネスコの進める ESD の活動にも熱心に取り組み、数多くの弁論大会や作文コンクールにおいて優秀な成果を収めた」という事で感謝状をいただきました。今年の中・高校生全員に「ユネスコ協会 ESD パスポート」を渡しています。ボランティア活動を通して地球の一市民として行動し、世界中の仲間と手を合わせて、これまでの世界をより良い方向へと変えていく努力をしていきましょう。

今年の緑のカーテンは？ーフウセンカズラの不思議な世界ー

今年の緑のカーテンは、5 月初旬に 3 種類の苗を購入してチャレンジしました。スーパーゴーヤとアップルゴーヤ・グラリオです。

緑のカーテンの目的は、遮光効果と冷却効果です。

前者は「よしず」や「すだれ」が持っている効果と一緒です。

後者は植物の蒸散（植物内の水が水蒸気となって大気に放出される現象）が関係しています。水は気化するとき周囲から大きなエネルギー（熱）を奪います。蒸散はエンジンのラジエータと同じような働きをして、植物表面を冷やし、結果として涼しい風を部屋に呼び込んでくれます。

また、緑のカーテンは、見るだけで、癒しの効果もあると思います。さらに、果実が収穫できるという、お土産効果もあります。

今年の結果は、アップルゴーヤだけは、蔓（つる）は絡（から）みましたが、果実は収穫できていません。最大果重が 1kg になるかもと、大きな期待を寄せていました。しかし、スーパーゴーヤはどうか成長し、ゴーヤも収穫でき、食卓にも上ることができました。グラリオもたくさん花を咲かせ、私の目を楽しませてくれました。

本来なら 3 種類の緑のカーテンの予定でしたが、フウセンカズラも混入して、そのカズラが一番よく成長しています。昨年、緑のカーテンとして購入したのですが、その種子がプランターに残っていて、今年、発芽、成長したようです。

緑色の風船形の実がなりますが、その実の中の種子がじつにユニークで、かわいらしい形をしています。

フウセンカズラの学名は *Cardiospermum halicacabum*。halicacabum：ホオズキのような形。そして、



スーパーゴーヤとグラリオ



Cardiospermum(カルディオスペルマム)はギリシャ語の「cardia(心臓) + sperma(種子)」が語源で、ハート形の種子、の意味だそうです。

フウセンカズラは、最後の最後になって、私の心を和ませてくれました。

採血1回、13種のがん判定が可能に

1回の採血で、がん13種類や認知症を見つける検査技術の開発に着手する、と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と国立がん研究センターなどが18日発表しました。(8月18日付朝日新聞) 13種類のがんは日本人に多い胃がんや大腸がん、肺がん、肝臓がん、乳がんなどです。

国立がん研究センターと国立長寿医療研究センターに保管されている、患者約7万人分の血液を解析して、それぞれの病気の「目印」となる特有のマイクロRNAという物質を特定します。血液などに含まれる「マイクロRNA」物質は、ヒトには2500種類以上あり、近年、病気によって血液中に分泌される種類や量が変わることがわかってきました。2018年度までに開発し、その後、健康診断への活用をめざすそうです。

これまででも採取した血液から、がん患者に増えるたんぱく質などを調べる腫瘍(しゅよう)マーカー検査が実施されていますが、多くはがんがある程度進行しないと検出できませんでした。マイクロRNAは、がん細胞がより小さい状態でも分泌されるため、早い段階でがんを見つけられる可能性があるそうです。研究が進んでいる乳がんや膵臓(すいそう)がん、大腸がんなどでは、特有のマイクロRNAの候補がわかりつつあるそうです。

採血だけで、さまざまながんが調べられるなら、体への負担は少なく済みます。早く実用化すればいいですね。

二十四節気 - 白露 -

白露(はくろ) 9月8日頃 野の草に宿る白露(しらつゆ)も、秋の風情を感じさせるようになる頃です。夜の内、大気が冷え込むようになり、朝がた草木などに露が宿ることが多くなります。

しかし、今年の秋はもうすでに始まっていますね。

対象となる13種類のがん

胃がん、食道がん、肺がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん、膀胱がん、卵巣がん、前立腺がん、大腸がん、乳がん、肉腫、脳腫瘍

実用化めざす検査技術

